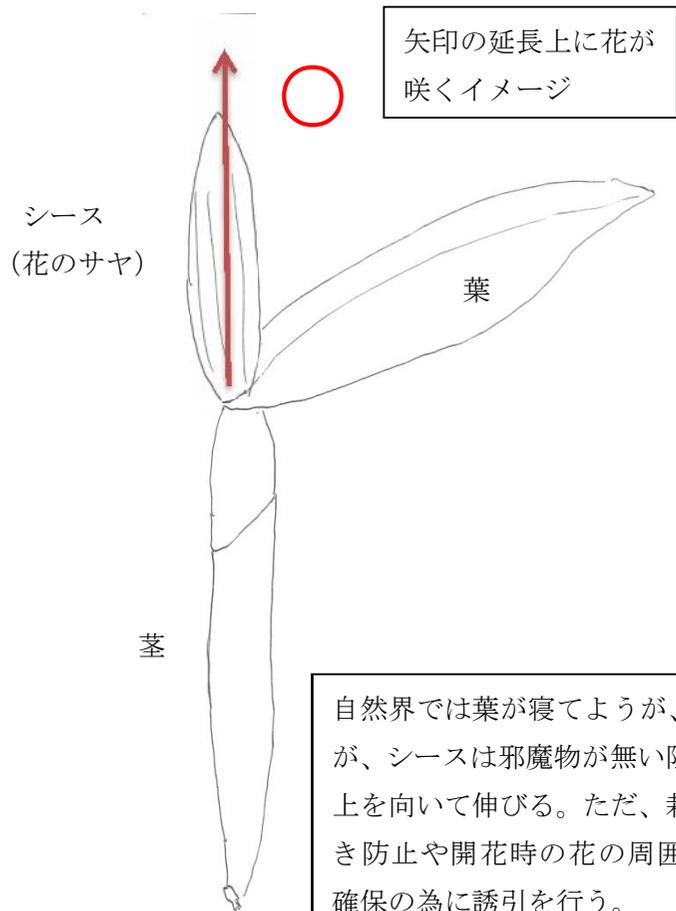
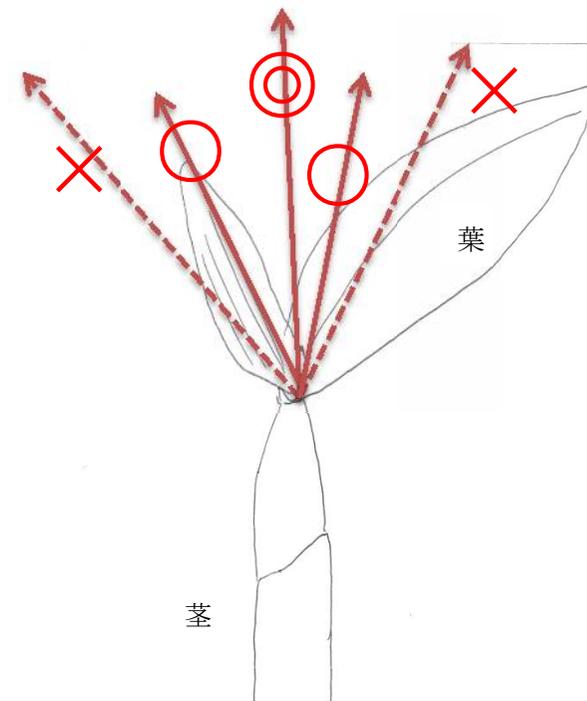
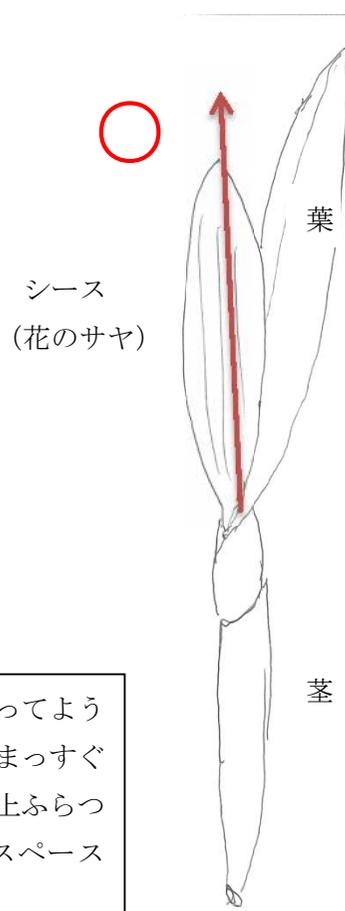


誘引についての解説



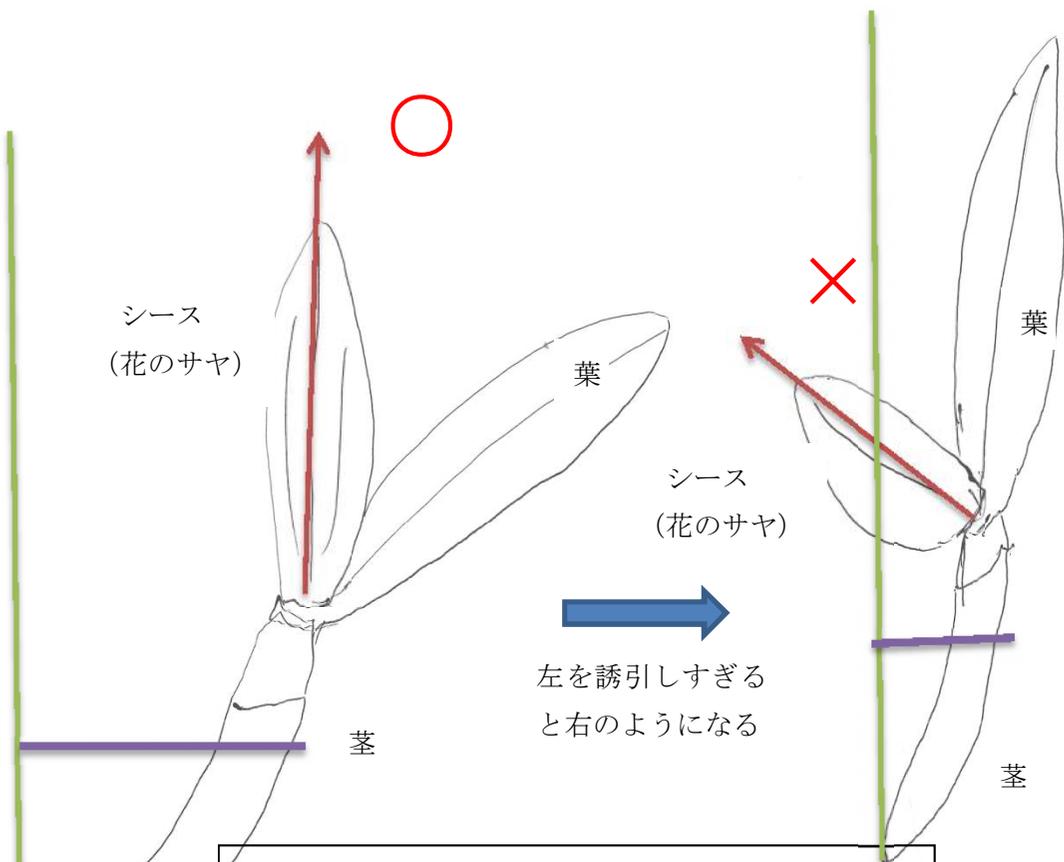
自然界では葉が寝てようが、立ってようが、シースは邪魔物が無い限りまっすぐ上を向いて伸びる。ただ、栽培上ふらつき防止や開花時の花の周囲のスペース確保の為に誘引を行う。

誘引の目的は、シースを邪魔物がない所に真っ直ぐに誘導してあげる事の手助けをすることである。



誘引のしすぎ（引っ張りすぎ）は、シースを斜めにしてしまい、結果、花が咲くと茎の曲がった花や、花びらが葉の上にあたってしまい、つぶれた花となってしまう。売れない花を作ってしまう結果につながるなのでこれでは誘引をする意味がない。

シースを垂直に立てるのは、理想であるが、不可能な場合は多少の曲がり許容範囲であり、最大限のメリットと最小限のリスクを各自考えて行ってほしい。

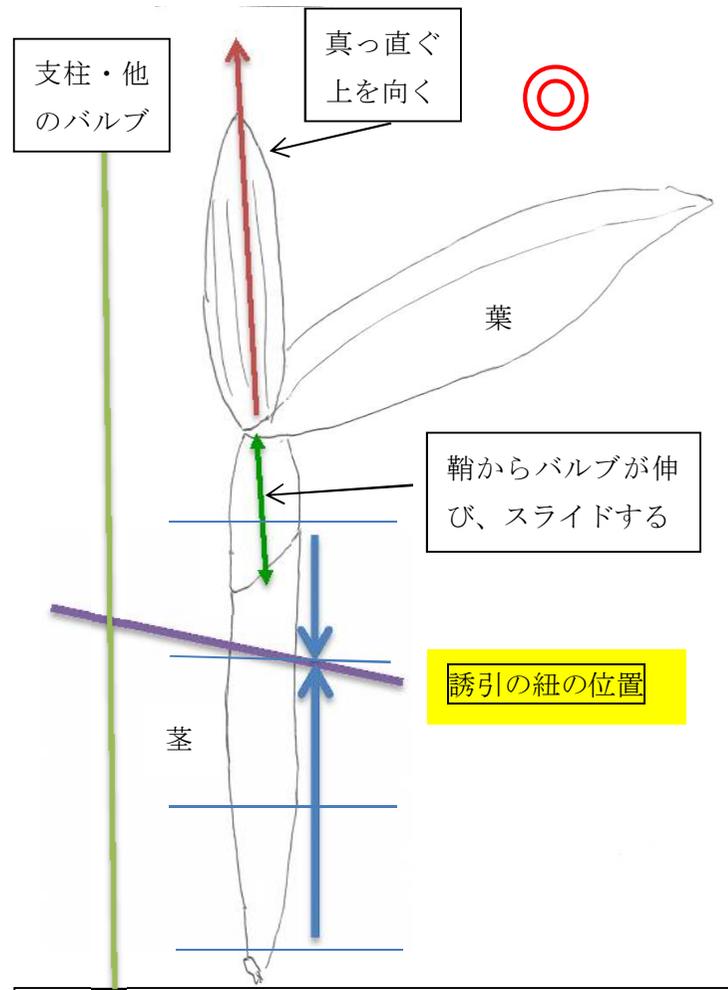


鉢から斜めに大きく張り出たバルブからも、シースはバルブや葉の角度に関係なくまっすぐ上に伸びているはずである。

誘引に注意しないと右図のように曲がってしまっは意味がない。誘引しない方が、かえってよかった。

最大限の効果と最小限のリスクを考慮する。

紐を縛った後、指一本分以上の余裕がないとバルブが太れない。考慮して縛る事



誘引の紐の位置

バルブの皮の、上から3分の1位をなるべく水平から株の中心の方が少し上がる程度に縛る。

鞘はほとんど伸びず、鞘から上だけが伸びるので、伸びた時のバルブのスライドを考えた最適な位置である。